

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 251 号	2022年6月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 5月29日（日）会員12名が参加し、稲作準備として、田圃および水路周辺の草刈り、除去草・落ち葉の撤去および焼却、田圃の畔塗、水車のバランス回収、ウシガエル卵の除去（止水池内の二箇所）の作業を実施しました。
- 6月4日（土）午後、田植えの準備として、神事の祭壇作り、苗の搬入、東屋のシート張り、トイレのテント設置などを行いました。参加者は、原田会長、辻野リーダー、会員5名でした。
- 6月5日（日）小雨の中でしたが、稲作体験・田植えを行いました。挨拶・神事・苗の植え方説明などをして、田んぼに入って泥に足を取られながら田植えをしてもらいました。膝癒しの代わりに、お菓子を渡し、解散しました。参加者は、親子自然観察隊（親15名、子20名）、二俣瀬子ども会（大人12名、子10名）、二俣瀬小学校の校長・教頭、宇部市関係者（大人3名、子1名）、山大学生2名、会員21名でした。
- 6月11日（土）9時～12時半まで臨時作業を行いました。内容は、湿地帯（川沿い）の浚渫です。重機を用いて溝を掘削し、残土は堤防替わりに積み上げました。重機の操縦は秋吉建設が行い、補助作業として当会から4人参加しました。参加したのは、原田、原谷、辻野、前田でした。
- 6月19日（日）会員11名で、ビオトープ全体の草刈り、除去草の焼却、湿地帯の溝堀、枯れ枝の収集および焼却（湿地帯）、水車のバランスの取り付け、ウシガエル卵塊の除去作業を行いました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

- 7月3日（日）エコアップ（ため池イグサ・湿地帯スゲ間引き）
- 7月17日（日）維持活動（観察路・駐車場の草刈り）
- 7月31日（日）維持活動（草刈り・清瀬峡整備）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「二俣瀬小学校 課外授業 」 （ 菅 哲郎 記 ）

6月8日（水）、10：30～11：45まで環境教育の一環としてビオトープの敷地内で宇部市立二俣瀬小学校3年生の生徒3名と担任の佐久間先生、安藤校長先生、それに父兄3名の出席をいただき、野外での昆虫教室を行いました。親子自然観察隊の管が対応いたしました。幸いにも晴天となり、気温22℃～25℃と絶好の観察日和になりました。生徒、先生、ご父兄合わせ8名でしたので、採集用具の一部はビオトープの備品から貸し出しいたしました。

事前に生徒の一人ひとりより「探したい生き物」のファイルを見せていただきました。“オオムラサキ”“ニホンカナヘビ”“ハナカマキリ”が示されました。ハナカマキリは宇部市では見られませんが、頑張って“ハラビロカマキリ”の子供を探せないかと提案しました。ハラビロカマキリの子供はハナカマキリそっくりな形態（姿）です。

また、チョウやトンボでなくため池にいる“ゲンゴロウなどの水棲昆虫をまず探したいとのこと、みんなでため池やヨケジの中を探り、コシマゲンゴロウなどを掬い取りました。

カブトムシの森にも入りましたが、マメコガネやヨツボシケシキスイだけでした。でもそこで、“ニホントカゲ”を採集でき、カナヘビではありませんでしたが一応の目的を達しました。さらに湿地のヤナギの森で“コムラサキ”を、東屋そばの池周りで“オオカマキリの仔”をゲットし、みんなそれぞれの目標をクリアしたようでした。

【確認・採集した生き物】

コムラサキ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、グンバイトンボ、ベニイトトンボ、クロイトトンボ、ヤマサナエ、モノサシトンボ、コシマゲンゴロウ、チビミズムシ、タイコウチ、ミズカマキリ、コオイムシ、マツモムシ、アメンボ、タニシ、ニホントカゲ、

（トンボのヤゴ：モノサシトンボ、クロイトトンボ、オオイトトンボ、シオカラトンボ、オニヤンマ）、コイチャコガネ、セマダラコガネ、マメコガネ、オオカマキリ幼生、



ため池での採集



ヨケジ内での採集状況



ゲンバイトンボ♂



柳の幹で給水している
コムラサキ♀

5. 親子自然観察隊 【 田植え 】 (管 哲郎 記)

朝の間は曇り空、絶好の田植え日和となりました。昨日の晴天ではすでに 29℃～30℃を確認しており、大変暑くなっていましたが、今日の気温は 8:00 では 22℃と大変作業のしやすい陽気となりました。

それでも、予報通り途中から雨に代わりましたが、田植えを行っている間は小雨で、気になるような雨ではなく、11 時前には無事に田植え作業を終えました。

親子自然観察隊、二俣瀬子供会、学校関係者、市関係者、山口大学学生などの参加をいただき、65 名ほどで田植えを行いました。雨の予報で参加を見合わせられた親子たちもいましたが、参加された年少の子供たちは、“泥んこ”になりながら、寒さに震えながらも一生懸命に頑張って田植えをする姿が印象的でした。東屋の中では火を焚いており、冷えた体を温めていただき、焚火のぬくもりを体験されたことでしょう。

「コロナ禍」では“膝癒し”の炊き出しができず残念ですが、子供たちにはお菓子類を持って帰っていただきました。雨の中の田植えも久しぶりのようで、泥んこになり、雨に濡れ、大変な経験をされた“田植え”になりましたが、無事終えてご苦労様でした、秋の収穫が楽しみです。



原田会長の挨拶



田植え前の神事



田植えの状況

小さな子たちも頑張りました



やっちゃった！



泥んこでも頑張りました

1年ぶりの田植えでしたが、今年はみんな上手に田植えができたようで、田植え仕事も早くなったようです。その反面、泥んこだらけになる子たちも多く、それだけ頑張ったということでしょうか。降雨の中、寒さにも負けずによく頑張ったと思いましたし、田んぼの外に出て遊ぶこともなく、気持ちの良い田植え作業になりました。

また、事前に周知していましたが、親たちの参加も多くあり、田植えが思った以上にはかどり、はやく終わったように思いました。本当にお疲れさまでした。

親子自然観察隊の感想

★中島りさ

田うえをしました。最初にうえ方のせつ明を聞きました。まずいねを3本まとめて根っこをもち、15センチの間かくで根っこがかくれるくらいにうしろ歩きでうえます。田んぼはぬるぬるしていました。100回くらいうえました。どろだらけになってさむかったけど楽しかったです。

★中島（母）

とても楽しい1日でした。田んぼの端から端まで植えるのは距離も長く時間もかかりましたが、子供は終始笑顔ですごく楽しそうにしていました。どの子もやり遂げたあとは泥だらけで、その姿はとても微笑ましかったです。田植えは88の工程の1つだそうですが、事前準備や当日のご指導などビオトープを作る会の方々のおかげで親子で大変貴重な経験が出来ました。稲が大きくなるのが楽しみです。ありがとうございました。

★湯浅（母）

4年生の息子は「田んぼの泥が気持ちよくて楽しかった！」とのこと。おたまじゃくしにあめんぼにカマキリ…大好きな生き物を発見しながら楽しそうに参加してました(sparkle) 1年生の娘は「次来るときは大きくなっと一かなー！」とのこと。次も楽しみにしています。本当にありがとうございます！！

★溝邊睦

雨で寒かったけど田植えはとても楽しかったです！小さいおたまじゃくしが田んぼにたくさんいてかわいかったです！

★溝邊義人

田植えはとても楽しかったです！田んぼ土が気持ちよかったです！

★溝邊寛人

田植えはいつも楽しいです！いい経験をさせていただいてありがとうございます！

★溝邊（母）

子供たちがとても楽しそうに田植えをしてる姿を見て嬉しい気持ちになりました田植え前の神事や田植え通じて、たくさんのことを学ぶことがとてもいい経験をさせていただいて感謝しています！たくさんの準備や見守りをしていただきありがとうございました。

★篠田喜和子

稲がどうやって大きくなってお米になるのか興味がわいた。稲刈りも楽しみだな。

★篠田結倫子

最初はどうわっ！と思ったけど、田んぼの中を裸足で歩くのは気持ち良かった。もっとシャバシャバの水を想像していて、ほとんど土だと思ってなかった。

★篠田英義

とても楽しかった。思ったよりも時間がかかって大変だと分かったけど、またやりたい。

★篠田（母）

子供達は率先して田んぼに入っていく、楽しそうに稲を植えていました。自分の足もとに、あめんぼや、おたまじゃくし、カエルなどがいて、嬉しそうに手で掬ったりしている姿も印象的でした。あの稲はどうやって作ったのかとか、一束がどのくらいのご飯になるのかなとか、子供達の口からは疑問がいっぱい。子供と一緒に調べて学ぼうと思います。田植えの体験は貴重な食育であり、こういう機会を頂けたことと、お世話してくださった皆様に心より感謝しています。

★中村（母）

トトロのシーンでも出てくる通り、昔は子供も一緒になって、田植えをする習慣だったのに、今では、手で植える体験は私たちにとって、楽しいイベントとなりつつあります。今回は、親子共々、本当に貴重な経験をさせてもらいました！ご飯一杯を食べるのに、様々な工程があつて、人の苦労や天気の恵に感謝して食べる意識が芽生えたと思います。雨の中、大変でしたが、収穫するまで、無事成長してくれることを祈っています。

★秋田理莉、菜那

苗を植えるのが楽しかった。

★秋田（母）

雨が降って肌寒い中、最後までやり遂げる姿が立派でした。

★岡村悠正

お米溢さないで食べないといけないなと思いました。（小3）

★岡村政吾

楽しかったけど疲れた！

★竹内結咲

楽しかったです。最初入るとき気持ち悪かった。でも慣れて楽しかった。足が抜けなくて服がべちゃべちゃになったです。

★竹内（父）

とても楽しく、良い経験を、させて頂きました。

★竹内（母）

田植えを親子とも初だった為、親は子供に返って一緒にはしゃいでいました(笑)

とても素晴らしい経験させて頂きました。ありがとうございます(*^*)

★早崎さん（会員）

久しぶりに外で裸足になりました。足の爪に泥がたくさんはいたので、次田植えをするときは古い靴下を履くのもいいなと思いました。雨の中、泥だらけになりながら一生懸命がんばっている親子を見て素敵だなと思いました。小さな子たちが小さなおてで植えてるのを見て、とても癒されました。田んぼには水カマキリや、ゲンゴロウ、アメンボなどたくさん虫がいました。子供たちは興味深々で捕まえ観察していました。農家の方は機械を使って田植えをするとはいえ、楽な仕事ではないなと思いました。昔ながらのお祈りの儀式や、田植えの歌があることを知りました。みんなで歌も歌ったし、秋の収穫が楽しみです。台風がきませんように

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （ 管 哲郎 記）

(76) ムカシトンボ *Epiophebia superstes* (Selys) ムカシトンボ科

生きた化石と呼ばれている大変珍しいトンボです。世界中に3種類、ヒマラヤ地方に生息する”ヒマラヤムカシトンボ”と中国奥地で新しく発見された腹の赤いムカシトンボの3種類ですが、幸いにも山口県には山間部のほぼ全域で観察されます。

3月下旬より現れ、6月初めには姿を消しますが5月の連休頃が一番よくみられます。山間部の森林に囲まれた溪流に生息しており、幼虫期間は長く5年～8年をかけ成長し、羽化する1か月ほど前に上陸し、枯れ草や石の下などに潜り羽化を待ちます。

数年間溪流の中で過ごしますので、その間生息環境が変わらないことが必要で、そのためムカシトンボがいることは環境の変化がないということになります。

ムカシトンボはサナエトンボによく似ていますし、”オニヤンマのちいさなやつ”と表現された方もおり、黒い体にキイロの模様がある体長5センチほどのかわいいトンボです。しかし、飛翔するときは大変すばしこく、目に留まらないほどのスピードで飛び回ります。目の前を何か黒い物体が横切った！と思うほどで、溪流沿いの樹木の多い開けた空間などが発見するチャンスです。うまく観察すれば、樹木の枝先に静止するムカシトンボを見られるかもしれません。筆者はムカシトンボの羽化する場所を探すのに7年かかりました。



ヤゴの顔



羽化の様子



(上) オスの羽化



(下) メスの羽化



7. 会よりの連絡事項

- 1) 今回はありません。

8. 編集後記 (前田 歳朗 記)

先日、群馬・福島県境の尾瀬へ行きました。尾瀬の湿原の中を歩き感じたのは、設置された木道の歩きにくさです。本来ならば、周囲の山々や湿原の草花を眺めながら歩きたいのですが、そんな余裕はありません。常に足元を注意して歩かなければ、湿原の中に転落してしまいます。

尾瀬に設置された木道の幅は60 cm位、これが左右に二本あり、この間に60 cm位の隙間があります。この隙間を埋めれば幅二メートル弱となり、歩きやすくなると思うのですが。なぜ、このように設置してあるのでしょうか。私は、植生を保護するためだと、考えています。木道の幅を極力狭くし、隙間を開けることにより、日陰による弊害を少なくできます。この隙間にも、水芭蕉などの植物を見ることが出来ました。

尾瀬では、植生の保護、外来種の侵入防止など、生態系の破壊に対して相当な注意を払っているようです。尾瀬の湿原を歩いていると、動植物の調査をする人を何組も見ました。雪解けの直後で、今年最初の調査だと思いますが、念入りにやられていました。木道の幅が狭ければ、目視による調査も容易になります。

尾瀬の湿原は、地元にとって重要な観光資源です。しかしそれ以上に、我々が守らなければならない自然遺産なのです。貴重な湿原を守るため、ゴミの持ち帰り(ゴミ箱がない)、洗剤の使用禁止、木道の補修等、様々な努力がなされています。このおかげで私は、水芭蕉をはじめ、リュウキンカ、タテヤマリンドウ、ショウジョウバカマなど、多くの植物を楽しむことが出来ました。